

第70回 文部科学大臣杯 全国青年弁論大会



期 日 **令和7年11月15日(土)・16日(日)**

会 場 **神奈川県横浜市 横浜国立大学 教育文化ホール**

[主催] 一般社団法人 日本弁論連盟

[共催] 国立大学法人 横浜国立大学

第70回文部科学大臣杯全国青年弁論大会実行委員会

[後援] 文部科学省 | 神奈川県 | 横浜市

神奈川県教育委員会 | 横浜市教育委員会

全国高等学校文化連盟弁論専門部

毎日新聞 | 朝日新聞横浜総局 | 読売新聞横浜支局 | 神奈川新聞

NHK横浜放送局 | t v k (テレビ神奈川)

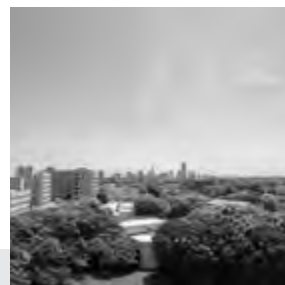
大会 目的

全国の若人が、それぞれの生活の中で学びとり感じ
とった事柄を必要な時に勇気と信念をもって正しく
相手に伝える技術を磨き、話し方教育の一端として
も広く社会の人々に披瀝し、批判と共鳴の中から正
しいものの見方、考え方を養い、お互いが明日への
成長の資とすると共に、弁論を通じて明るく健全な
地域社会の発展に寄与すると共に外国の人達とも友
好親善を深めることを目的とする。

表紙 写真

横浜国立大学

●神奈川県



実践性・先進性・開放性・国際性・多様性、5つの理念はYNUの教育・研究の原点です。47都道府県すべてから集まる約10,000人の日本人学生のみなさん、そして世界中約80か国から集まる約800人の留学生のみなさんの多様性が、無限の可能性とともにこの理念を支えています。

文明開化発祥の地であり、グローバル企業が集まる国際都市として知られ、みなとみらい地区や中華街をはじめとする観光地にぎわう魅力的な街、横浜。YNUはこの大都市横浜の中にありながら、緑豊かな落ち着いた一つのキャンパスで、人文・社会系分野と理工系分野が融合した教育を行い、グローバルとローカルな課題に対応できる人材を育成します。

YNUは、これからもみなさんと一緒に多様な学生が生き生きと学ぶことができる教育拠点を目指すとともに、世界基準の教育・研究の成果を社会に発信し、より良い未来を創造していきます。

ご挨拶



一般社団法人
日本弁論連盟
会長

片岡武司

歴史と伝統に輝く、第70回 文部科学大臣杯 全国青年弁論大会が文部科学省・神奈川県・横浜市・横浜国立大学をはじめ、弁論を愛する多くの皆様のご支援を頂き、70回の節目の大会を近代日本の発展に大きな関わりのあるここ横浜市で開催されますことは、この上ない喜びであり、意義ある大会になることと確信しております。

日本弁論連盟は、弁論を通じて世界の平和と幸福を追求し、社会的使命感や責任感を持つことのできる青少年の育成を目標に、昭和31年に第1回大会を大阪府岸和田市で開催いたしました。以来、全国各地で開催し、本年ここに第70回を迎えることができました。

70年の歩みは現代日本の歴史そのものであり、大会に出場された弁士の皆さんは、社会や人々に対して深い感銘を与え続け、それぞれに素晴らしい主張を伝え、その時代の重要な課題と真摯に向き合ってこられました。現代は世界の状況とともに、新時代へ向けて大きく変化しようとしています。いつの時代も社会の人々を動かすのは、言葉が持つ大きな影響力があることは否めません。弁論はその要請に応える一つの手段です。日本弁論連盟は、弁論大会の開催とともに弁論の普及活動に尽力することで社会貢献の責任を果たしてまいります。

弁論大会の主役は、厳しい予選会や原稿審査にて選ばれた40名の弁士の皆さんです。希望と勇気に満ちた若い真剣な言葉が新時代の先駆けとなることでしょう。大いに熱弁を奮い、日頃からの研鑽努力の成果を存分に発揮して大会の歴史を積み上げていただくことを願い、今大会でも余すところなくその実力を体現されますことを期待しております。

最後に第70回大会を開催するにあたり、ご後援を賜りました文部科学省・神奈川県・横浜市・神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会・高文連弁論専門部会をはじめ、諸団体と弁論を愛する皆様に深く感謝申し上げます。

祝 辞



文部科学省
大臣

松本洋平

本日、第70回文部科学大臣杯全国青年弁論大会が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

本大会は、今回で70回目という節目を迎えます。第1回大会が開かれた1956年、戦後10年を経て日本が国際連合に加盟し、国際社会への本格的な復帰を果たしました。いわゆる「神武景気」の下、経済白書に「もはや戦後ではない」と記され、高度経済成長期を迎えた時代に、本弁論大会は始まりました。

それ以来、歴代の弁士たちは時代ごとのさまざまな社会課題と真摯に向き合い、本大会の舞台に立ち続け、自らの言葉で弁を尽くし、聴衆へ熱い想いを届け続けてきました。

このように本大会は、全国から集まった青年が、それぞれの生活の中で学び感じとった事柄を、弁論を通じて、相手への確に伝える技術を磨くとともに、適切なものの見方、考え方を養うことで、明るく健全な地域社会の発展に寄与するという、意義深い取組だと思います。

現在、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっています。こうした時代を生きる我々には、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることが求められています。

文部科学省といたしましても、このような認識の下、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、教育改革に取り組んでおりますが、既に皆さんは、日頃から弁論の場で、異なる価値観を持つ多様な相手と対話を行い、当事者意識を持って問題を発見・解決する経験を積まれていることと思います。そうした経験を通じ、どのような時代の変化にも柔軟に対応し、生き抜くことができる、持続可能な社会の創り手たる力を身につけた皆さんが、これからの我が国の未来を力強く切り拓いていただけるものと確信しております。

本日出場される皆さんが、日頃の練習の成果を発揮し、多様な想いや願いを存分に主張されるとともに、他の弁士の主張から新たな示唆を得て、更に成長されることを心から願っております。

結びに、本大会の御成功並びに一般社団法人日本弁論連盟のますますの御発展と、本日の経験が皆さんの未来に光を届けるものとなることを祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



神奈川県
知事

黒岩祐治

第70回全国青年弁論大会の開催をお慶び申し上げますとともに、全国各地から神奈川県にお越しいただいた弁士の皆様ならびに関係の皆様を心から歓迎いたします。

日本弁論連盟の皆様方におかれましては、日頃より弁論の普及活動を通して、青少年の健全育成と明るい地域社会の発展にご尽力いただいております。深く敬意を表します。

近年、少子高齢化の深刻化とともに、次世代の担い手である子ども・若者が抱える生きづらさや将来への不安など、様々な課題が顕在化しており、将来にわたって子どもから高齢者まですべての世代の人たちが希望を持つことができる社会づくりが求められています。

こうした中、県では、若い世代が未来に希望をもてるよう、当事者である若い世代や子どもの目線を大切にしながら、子ども一人ひとりの「いのち」が輝く社会の実現を目指し、「神奈川県子ども目線の施策推進条例」を制定し、この4月に施行しました。

この条例では、「こどもの目線に立つ」という考えを大切にしています。子どもの権利を尊重し、子どもにとって最も良いことは何かを、子どもの目線から考えて施策を推進することで、誰もが自分らしく幸せに暮らすことができる「ともに生きる社会」の実現を目指していきたいと考えています。

この「ともに生きる社会」の実現には、人と人々が互いに理解し合い、互いの人権を尊重することが重要です。そうした意味でも、若い世代の方がそれぞれの生活の中で学びとり、感じとった事柄を正しく相手に伝える技術を磨き、弁論を通じてものの見方、考え方を養い、お互いの成長の資とすることを目的とするこの大会は、大変有意義であり、私としても大変心強く思っております。出場される皆様におかれましては、日頃の成果を十分に発揮し、ご自身の思いをしっかりと伝えていただき、この大会を実り多いものにしていただきたいと思います。

結びに、本大会のご成功並びに日本弁論連盟のますますのご発展と、皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、私のお祝いのあいさつといたします。

ご挨拶



横浜国立大学
学長

梅原 出

第70回文部科学大臣杯全国青年弁論大会の開催、誠にありがとうございます。

この記念すべき節目を迎えられたことに、心よりお祝い申し上げますとともに、長年にわたり本大会を支えてこられた関係者の皆様のご尽力に、深く敬意を表します。

本大会は、全国の若者が自らの思いや考えを言葉にし、社会に向けて発信する貴重な機会です。70年という長きにわたり、若者の「声」が社会と響き合い、時代を映す鏡として機能してきたことは、本大会の持つ意義の大きさを物語っています。

横浜国立大学は、「実践性」「先進性」「開放性」「国際性」「多様性」を5つの基本理念とし、社会課題の解決に貢献する人材の育成に取り組んでおります。その中でも、「伝える力」は、知識や技術と並んで極めて重要な能力です。研究成果を社会に還元するためにも、教育現場で多様な価値観と向き合うためにも、自らの考えを的確に、そして誠実に伝える力が求められます。

弁論大会はまさにその力を鍛える場であり、また同時に、互いの弁論を聞くことで、新しい視点を得ることができる場でもあります。皆様がこの大会を通じて培う経験は、今後の学びや社会での活躍において、かけがえのない財産となることでしょう。

本日ここに集われた皆様が、互いに刺激を受け合い、さらに大きく成長されることを心より願っております。そして、この節目の大会が、次の時代へと続く新たな一歩となることを祈念いたします。

結びに、本大会のご成功と、参加者の皆様の今後ますますのご活躍をお祈り申し上げ、祝辞といたします。



「言葉の力を、時代の光に」

【応募規定】

参加資格：15歳～40歳未満（中高生の部・一般の部）
発表人数：40名以内
応募形式：論題自由（日本語）
発表時間：7分以内
予選：原稿審査（一部、予選大会あり）
本選：横浜国立大学 教育文化ホール

＃弁論 “X” で発信中

【大会次第】

8:30 開会式
9:00 弁論（一般の部）
12:30 弁論（中高生の部）
16:30 閉会式



第70回

令和7年
11月16日(日)

文部科学大臣杯 全国青年弁論大会

横浜国立大学 教育文化ホール

入退場自由

ご来場をお待ちしています

【申込方法】

Webサイトから **オンラインのみ**

締切 **9月26日(金) 午後5時**

共催：横浜国立大学

後援：文部科学省

神奈川県 神奈川県教育委員会

横浜市 横浜市教育委員会

毎日新聞 朝日新聞横浜総局

読売新聞横浜支局 神奈川新聞

NHK 横浜放送局 t v k (テレビ神奈川)

全国高等学校文化連盟弁論専門部

主催：一般社団法人 日本弁論連盟



一般社団法人

日本弁論連盟

詳細は Web サイトで、ご確認ください。

<https://benron.jp> @benron_jp



「未来の声を、ともに支えませんか？」

パートナーになってくださる企業、団体、個人の方を募集しています。

過去の最優秀弁論は YouTube 「**弁論 ch**」で

↓ ホームページ



【アクセス】

○横浜駅から

横浜駅

↓ 地下鉄 (約 4 分)

三ツ沢上町駅

↓ (徒歩約 16 分)

正門まで

○羽沢横浜国大駅から

相鉄・JR 直通線

相鉄・東急直通線

羽沢横浜国大駅

↓ (徒歩約 15 分)

西門・北門まで

大会役員

(敬称略・順不同)

大会名誉顧問	文部科学大臣	松 本 洋 平
大会顧問	神奈川県知事	黒 岩 祐 治
〃	横浜市長	山 中 竹 春
〃	横浜国立大学 学長	梅 原 出
〃	日本弁論連盟 顧問	住 田 信 治
大会会長	日本弁論連盟 会長	片 岡 武 司
大会副会長	日本弁論連盟 代表理事	大 西 貫 也
〃	日本弁論連盟 副会長	平 松 公 子
〃	日本弁論連盟 副会長	永 田 英 樹
〃	日本弁論連盟 副会長	木 内 和 夫
〃	日本弁論連盟 副会長	西 尾 直 毅
〃	日本弁論連盟 副会長	富 田 向 真
〃	横浜国立大学 教授	勝 地 弘
大会実行委員長	日本弁論連盟 理事	森 一 陽
大会運営委員長	日本弁論連盟 社員	有 馬 優
大会実行委員	日本弁論連盟 理事	松 浦 顕 雄
〃	日本弁論連盟 理事	渡 邊 克 也
〃	日本弁論連盟 理事	榊 原 啓 優
〃	日本弁論連盟 理事	三 阪 芳 史
〃	日本弁論連盟 監事	安 島 進市郎
〃	日本弁論連盟 社員	南 上 清一郎
〃	日本弁論連盟 社員	蔵 都
〃	日本弁論連盟 社員	出 口 資 朗
〃	日本弁論連盟 社員	梶 田 晋
〃	日本弁論連盟 社員	保 坂 和 幸
〃	日本弁論連盟 社員	吉 本 澄 弘
〃	日本弁論連盟 社員	三 嵩 顕 一
〃	日本弁論連盟 社員	水 嶋 恵利那
〃	日本弁論連盟 社員	西 根 朋 子
大会運営協力	[中央大学辞達学会] 歌川喜矢 [明治大学雄弁部] 秋庭大輝 宇留野真 加藤正宗 江口天翔 齋藤佑真 堤秀真 松ヶ浦貫 山本蒼太郎 [早稲田大学雄弁会] 米川一真 保坂恵美 三阪花葉 嶋田有莉 野世優花	

大会実施要項

- 名 称** 第70回 文部科学大臣杯全国青年弁論大会
- 期 日** 令和7年11月15日(土)・11月16日(日)
- 会 場** 横浜国立大学 教育文化ホール
〒240-8501神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1
電話番号 045-339-3014
- 主 催** 一般社団法人 日本弁論連盟
- 共 催** 国立大学法人 横浜国立大学
第70回文部科学大臣杯全国青年弁論大会実行委員会
- 後 援** 文部科学省 神奈川県 横浜市
神奈川県教育委員会 横浜市教育委員会
全国高等学校文化連盟弁論専門部
毎日新聞 朝日新聞横浜総局 読売新聞横浜支局
神奈川新聞 NHK横浜放送局 t v k(テレビ神奈川)

大会事務局

第70回 文部科学大臣杯 全国青年弁論大会 事務局

- 事務局長** 一般社団法人日本弁論連盟 白馬秀孝
- 住 所** 〒399-0704 長野県塩尻市広丘郷原786 郷福寺内
- 電 話** 0263-52-6198
- 携帯電話** 090-5207-0151
- E-mail** info@benron.jp



一般社団法人

日本弁論連盟

見やすく、使いやすく、
新しくなった公式サイト。

<https://benron.jp/>

大会日程

11月15日 土曜日

【弁士受付等会場】横浜国立大学 教育文化ホール

- 14:00 ■ 受付(役員)
- 14:30 ■ 一般社団法人日本弁論連盟社員総会
- 15:00 ■ 受付(弁士)
- 16:00 ■ 登壇順抽選会
- 16:30 ■ 審査員会
- 17:30 ■ 交歓会受付
- 18:00 ■ 交歓会 会場：横浜国立大学 生協第一食堂

11月16日 日曜日

【会場】横浜国立大学 教育文化ホール

- 8:00 ■ 受付(弁士・来賓・審査委員・役員)
- 8:10 ■ 記念写真撮影
- 8:20 ■ 審査員会
- 8:30 ■ 開会式
- 9:00 ■ 競弁(一般の部・中高生の部)
- 11:30 ■ 昼食
- 12:30 ■ 競弁(中高生の部)
- 16:30 ■ 表彰・閉会式

大会次第

開会式	開会のことば	大会実行委員長	森 一 陽
	挨拶	大会会長 日本弁論連盟会長	片岡 武 司
	来賓祝辞	文部科学大臣	松 本 洋 平
	//	横浜国立大学 都市イノベーション研究院長	勝 地 弘
	来賓・役員紹介		司会者
	文部科学大臣杯返還	第69回受賞者	松 本 心 和
	レプリカ授与	大会会長 日本弁論連盟会長	片岡 武 司
	審査員紹介		司会者
基準弁論	審査規定説明		司会者(P13参照)
	基準弁論	東海高等学校	多田航志郎
	基準弁論結果発表	日本弁論連盟 事務局長代行	三 阪 芳 史
競 弁	競 弁 【一般の部・中高生の部】		
	————— 昼食休憩 —————		
競 弁	競 弁 【中高生の部】		
コメント		特別審査員	フ ィ フ ィ
閉会式	審査講評	審査員長	樽 沼 範 久
	審査結果発表	日本弁論連盟	安島進市郎
	表 彰	大会会長 日本弁論連盟会長	片岡 武 司
	次回大会宣言	日本弁論連盟	保 坂 和 幸
	閉会のことば	大会運営委員長	有 馬 優

〔司会〕
日本弁論連盟
有馬 優

基準弁論

競 弁

閉会式

〔司会〕
日本弁論連盟
水嶋恵利那

出場弁士

基準弁論

氏名	演題	都道府県・学校名等
多田 航 志 郎 ただ こうしろう	付き纏う理不尽	愛知県 東海高等学校

一般の部

番号	氏名	演題	都道府県・学校名等
1	目加田飛鳥 めがた あすか	ひとつむぎの誓い	北海道 教員
2	目黒花織 めぐろ かおり	糲がつなぐ命の災害食	宮城県 福島大学
3	小林美結 こばやし みゆ	大人になるあなたへ	埼玉県 法政大学
4	平良友依 たいら ゆい	この左手が掴むもの	東京都 会社員
5	千葉佳織 ちば かおり	経験し得ぬことを尊べば	東京都 会社役員
6	内藤拓真 ないとう たくま	「大丈夫、個のままでいいんだよ」	東京都 東京大学大学院教育学研究科
7	萩原大翔 はぎわら ひろと	見えない壁のその先に	東京都 日本大学
8	吉田恭子 よしだ きょうこ	今ここにいる私たちから ～未来への贈り物～	東京都 会社員
9	浅野洋一 あさの よういち	境界を越えて、共に生きる	神奈川県 会社員
10	北見麻以子 きたみ まいこ	真実の語り部として ～子どもたちに手渡す未来のために～	神奈川県 会社員
11	Nguyen Hoang Vinh ぐえん ほあん づいん	本物だけができること	神奈川県 横浜国立大学
12	野口史珠音 のぐちしずね	転んだ先の杖	神奈川県 明治大学
13	伊藤佑太 いとう ゆうた	未来のないプロポーズ	奈良県 教員
14	木村観音 きむら かの	レジリエンス ～未来への希い～	和歌山県 高野山学園高野山大学
15	葭原春輝 よしはら はるき	「知性」を生きる	福岡県 中学校教員

●上記の番号は、登壇の順番ではありません。

中高生の部

番号	氏名	演題	都道府県・学校名等
1	伊藤 栞 いとうしおり	未来へ向かって	北海道 北海学園札幌高等学校
2	坂本 真望 さかもと なおみ	私だけじゃなくて	北海道 立命館慶祥高等学校
3	高橋 凛 たかはし りん	悪者がいない世界で私たちは	北海道 市立札幌旭丘高等学校
4	芳賀 尋子 はが ひろこ	未来にまどはない	北海道 旭川藤星高等学校
5	早川 陽斐 はやかわ はるひ	「別人だから、違う。」	山形県 致道館高等学校
6	高野みなみ たかの みなみ	終わりなき承認	茨城県 太田第一高等学校
7	吉川 遼 よしかわ たくま	諸刃のSNS	茨城県 水戸農業高等学校
8	石崎 優花 いしざき ゆうか	あきらめない心	千葉県 千葉敬愛高等学校
9	渡部 天音 わたべ あまね	Love myself から始めよう!	千葉県 千葉西高等学校
10	西根 蓮 にしね れん	無駄じゃない	東京都 国土館高等学校
11	川泉 彩葉 かわいずみ いろは	普通、やめました	神奈川県 横浜国立大学教育学部附属横浜中学校
12	水口 璃音 みずぐち りおん	「知識」で終えずに考える	神奈川県 相模原中等教育学校
13	大橋 香菜美 おおはし かなみ	TKB 48 ～減災に必要なアーカイブ～	石川県 穴水高等学校
14	花塚 勇智 はなづか ゆうと	次のヒトラーも私達を選ぶ	愛知県 東海中学校
15	林 翔太 はやし しょうた	沈黙という名の死	愛知県 東海高等学校
16	三浦すみれ みうら すみれ	苺のないショートケーキ	京都府 京都教育大学附属高等学校
17	木村 大聖 きむら だいしょう	為せば成る	和歌山県 高野山高等学校
18	野中 麻央 のなか まお	一步がつなぐ幸せ	兵庫県 賢明女子学院高等学校
19	尾形 大翔 おがた ひろと	白球飛び交うところに	岡山県 おかやま山陽高等学校
20	市川舞衣子 いちかわ まいこ	舞衣子の腎臓はいらない	福岡県 福岡大学附属大濠高等学校
21	北尾花珠葉 きたお かずは	斜めのつながり	福岡県 東筑紫学園高等学校
22	村林 結衣 むらばやし ゆい	ガス抜きを逆手にとって	長崎県 波佐見高等学校
23	竹内 歩 たけうち あゆむ	幸せとは ～逆境から夢を描く庭師～	熊本県 北稜高等学校
24	富田 琉斗 とみた りゅうと	身近な自然、つながる世界	沖縄県 豊見城高等学校
25	當眞 碧海 とうま あみ	無意識な思い込み	沖縄県 豊見城南高等学校

●上記の番号は、登壇の順番ではありません。

審査員

審査員長

横浜国立大学 都市イノベーション研究院 /
都市科学部 教授

くれ ぬま のり ひさ
樽 沼 範 久 先生

特別審査員

タレント / コメンテーター

フ ィ フ ィ 先生

審査員

(五十音順)

国土舘大学 名誉教授・政治学博士

いけ だ そう ご
池 田 十 吾 先生

茨城大学 教育学部教育学野全学教職センター 特任教授

いし い じゅん いち
石 井 純 一 先生

神奈川県議会議員

こ ばやし たけ し
小 林 武 史 先生

一橋大学 非常勤講師(日本語教師)

さ じ さ き
佐 治 早 紀 先生

俳優(演劇集団円)

の がみ え り
野 上 絵 理 先生

横浜国立大学 国際戦略推進機構 准教授

はん ざわ ち え み
半 沢 千 絵 美 先生

佐世保市立相浦小学校 教諭

みず の し おり
水 野 詩 織 先生

NHKアナウンサー
横浜国立大学 総合学術高等研究院 客員教授

やま ぐち まさる
山 口 勝 先生

審査規定

- | | |
|-------------|---|
| 審査方法 | 審査委員が論旨60点、表現40点の合計100点満点として採点し、その得点の最高点と最低点を除いた平均点を基に行います。 |
| 発表形式 | マイクの使用を原則とします。 |
| 制限時間 | 弁士は7分以内で弁論を行ってください。鈴は6分で1鈴、7分で2鈴鳴らします。 |
| 減点 | 6分未満、または7分超過において減点します。 |
| その他 | 上記以外の細則については別途定めます。 |

審査の観点

論旨 (60点)

1. 主題に対する問題意識が明確で、自己の世界にとどまらない広がりがある。
2. 構成はわかりやすく筋が通っている。
3. 材料は具体的で豊富であり、適切に生かされている。
4. 新鮮な観点と独創的な発想がある。
5. わかりやすく論旨に適したことばを使い、結論は明快で説得力がある。
6. 演題が論旨をよく表現し、全体として人間への愛情がある。

表現 (40点)

1. 熱意を持ち、謙虚で誠実な態度であり、人格・個性と論旨がマッチしている。
2. 抑揚は正しく、発音は明瞭で、声量・強弱・速さ・間の置き方は適切である。
3. 身振り手振りや表現が自然であり、聴衆一人ひとりに訴える姿勢がある。
4. 聴衆をひきつけ、聴衆とともに深い感銘を共有した。

表彰

			受賞者
最優秀賞	一般の部 1名	文部科学大臣杯 神奈川県知事賞 毎日新聞社賞	日本弁論連盟会長賞
	中高生の部 1名	橘高記念杯 神奈川県知事賞 毎日新聞社賞	日本弁論連盟会長賞
優秀賞	一般の部 2名	横浜市長賞 朝日新聞横浜総局賞	日本弁論連盟会長賞
		神奈川県議会議長賞 NHK横浜放送局長賞	日本弁論連盟会長賞
	中高生の部 2名	横浜市長賞 朝日新聞横浜総局賞	日本弁論連盟会長賞
		神奈川県議会議長賞 NHK横浜放送局長賞	日本弁論連盟会長賞
優良賞	一般の部 3名	神奈川県教育委員会教育長賞 読売新聞横浜支局賞	日本弁論連盟会長賞
		横浜市教育委員会教育長賞 神奈川新聞社賞	日本弁論連盟会長賞
		横浜国立大学学長賞 tvk 賞	日本弁論連盟会長賞
	中高生の部 6名	神奈川県教育委員会教育長賞 読売新聞横浜支局賞	日本弁論連盟会長賞
		横浜市教育委員会教育長賞 神奈川新聞社賞	日本弁論連盟会長賞
		横浜国立大学学長賞 tvk 賞	日本弁論連盟会長賞
		横浜国立大学学長賞 tvk 賞	日本弁論連盟会長賞
		横浜国立大学学長賞 tvk 賞	日本弁論連盟会長賞
		横浜国立大学学長賞 tvk 賞	日本弁論連盟会長賞
		横浜国立大学学長賞 tvk 賞	日本弁論連盟会長賞
奨励賞	若干名	日本弁論連盟会長賞	
第69回大会 最優秀者 文部科学大臣杯 レプリカ授与			松本 心和
特別賞	日本弁論連盟会長賞		

日本弁論連盟 役員名簿

(令和7年11月現在・順不同)

役職	氏名	経歴・現職等
社員(顧問)	新 田 修	元全国高等学校文化連盟弁論専門部北海道常任理事
〃	住 田 信 治	元日本弁論連盟事務局長
〃	橋 本 真 人	高野山高等学校校長
代表理事(会長)	片 岡 武 司	元衆議院議員
代表理事(総務)	大 西 貫 也	元日本弁論連盟副会長 前事務局長
理 事(副会長)	平 松 公 子	元全国高等学校文化連盟弁論専門部中国常任理事
〃	永 田 英 樹	全国高等学校文化連盟弁論専門部部長
〃	木 内 和 夫	元明海大学教授 千葉県弁論連盟会長
〃	西 尾 直 毅	UDEXコンサルティング・インク代表取締役
〃	富 田 向 真	和歌山県高文連弁論部会代表理事
理 事	松 浦 顕 雄	全国高等学校文化連盟弁論専門部常任理事
〃	渡 邊 克 也	茨城県教育庁高校教育課
〃	小 林 真 史	北海道高等学校文化連盟常務理事・弁論専門委員長
〃	安 達 健	全国高等学校文化連盟弁論専門部事務局長
〃	森 一 陽	東海学園弁論部OB会幹事長
〃	榊 原 啓 優	高野山高等学校教諭
理 事(事務局長)	白 馬 秀 孝	郷福寺住職
理 事(事務局次長)	三 阪 芳 史	福岡県児童相談所 児童福祉司
監 事	橋 本 光 信	国土館高等学校言道部OB
〃	安 島 進 市 郎	東海学園弁論部OB、公認会計士
社 員	持 田 勉	NHK青年の主張全国会長 元島根県県会議員
〃	平 山 公 治	千葉県高等学校文化連盟弁論専門部委員 東金高校教諭
〃	益 田 省 吾	熊本県青少年弁論会事務局長
〃	喜多見 彰 彦	元全国高等学校文化連盟弁論専門部事務局長
〃	米 澤 厚 江	元鳥取女子高等学校校長
〃	泉 健 太	衆議院議員
〃	友 利 吉 博	宮古島市文化協会顧問
〃	南 上 清 一 郎	明治大学雄辯部OB
〃	蔵 都	石川県スピーチ研究所所長
〃	成 田 英 行	前北海道高等学校文化連盟弁論専門部監事
〃	森 川 大 吾	厚生労働省北海道労働局
〃	出 口 資 朗	国土館高等学校言道部OB
〃	石 川 直 志	(株)満龍 社長
〃	岡 山 和 美	石川県立羽松高等学校教諭
〃	馬 場 浩	日本図書輸送(株)
〃	岩 崎 繁	元共愛学園高等学校教諭
〃	野 口 圭	野口自動車社長
〃	麻 生 子 八 咫	(株)あそう活弁 活弁士
〃	吉 田 猛	元全国高等学校文化連盟近畿代表常任理事
〃	平 田 大 一	元沖縄県文化振興会理事長
〃	渡 邊 雅 利	全道弁論専門部事務局長 北海高等学校教諭
〃	細 川 宗 洋	中京弁論部OB
〃	中 川 雅 子	岡山県議会議員
〃	田 代 紀 子	大東文化大学第一高等学校教諭
〃	北 見 麻 以 子	立命館慶祥高等学校弁論部OG
〃	梶 田 晋	東海学園弁論部OB、弁護士
〃	竹 内 裕 二	下関市立大学 経済学部 教授
〃	保 坂 和 幸	コミュニケーション教室講師
〃	水 野 詩 織	小学校教員
〃	吉 本 澄 弘	中京弁論部OB
〃	三 嶋 顕 一	茨城県立水戸第二高等学校教諭
〃	水 嶋 恵 利 那	株式会社ハナシコム 代表取締役
〃	有 馬 優	横浜国立大学教員
〃	石 井 純 一	茨城大学全学教職センター 特任教授
〃	西 根 朋 子	国土館高等学校OG
〃	大 山 広 子	日本CIS認定協会会長

文部科学大臣杯 最優秀賞

ツールがルールを規定する ～インプレゾンビにご用心～ 穴水高等学校 松本心和

今年の初め1月1日、午後4時過ぎ、入院中の父のお見舞いに出かけ、金沢医科大学病院のすぐ近くの内灘インターを降りた直後でした。乗っていた車がまるで遊園地の乗り物のように、グルングルンと揺れ中の私たちは、フライパンの中のポップコーン状態でした。

「お父さん大丈夫かな？」揺れが治まって、なんとか病院に駆けつけたら、お父さんの9階の病室も大きく揺れ、ベッドが壁に張り付いていました。その後すぐに能登半島の穴水町の実家に電話しましたが、つながりません。停電・断水、道路は寸断、特に私たちが先ほど通った「のと里山海道」は、崩落して戻ることもできません。そのため、ちょっとでも情報が得られることを期待して、石川県庁近くの駐車場で車中泊することになりました。

車の中で見るニュースは、輪島上空からの映像で、町が紅蓮の炎に包まれています。能登町の津波の映像も流れてきます。なんとか、家族や友人たちと連絡を取りたかったのですが、まったくスマホは反応しません。それでもX(旧ツイッター)でなんとか情報収集して、皆の安否を知りたいと思い、XをメインにInstagram、ラインなど使えるものはすべて使って、夜を過ごしました。

すると不思議な投稿が、次々に流れてくるのです。インプレゾンビです。「おばあちゃんが、家の下敷きになって出られない。すぐに消防に連絡して」「土砂崩れで車の中に閉じ込められている」「津波が家をさらっていった弟と一緒に」など、悲痛な叫びを感じるものばかりでしたが、その後ろに顔文字がついていたり、明らかに不自然な言葉が並ぶもの、中には、その時点でスマホが通じない穴水町からの発信、しかも指定の住所が存在しない。あやふやで怪しげな投稿が怒涛の勢いで流れ込んできます。

この投稿の実態を知ったのは、3月下旬の新聞でした。この現象はインプレッション稼ぎと呼ばれ、自分のSNSの閲覧数を稼ぐために、濁流に車や船が飲み込まれる動画や先ほどの救援要請を作成して、拡散することで閲覧数を稼ぐのです。

発信元は、パキスタンの地方都市で、その閲覧数の多さによってXからお金が送られてきたという記事までありました。男性は、インプレッション稼ぎのために、能登半島地震を利用したというのです。加えて、能登半島地震は、外国から偽情報が送られてきた初の大規模災害と言われ、「アテンションエコノミー・過激な見出しで関心を引く」ことへの弊害だと書かれていました。

唖然としました。偽情報や過激な画像に一言、何なら顔文字だけ付けて閲覧数を稼ぐ、なんと悪質なSNSの使い方ではないでしょうか。あの日の投稿の多さや異常さの原因は、これだったのです。その後に生まれた言葉としては、インプレッションを稼ぐために、次々と翻訳ソフトなどを使い外国から投稿し続ける「インプレゾンビ」と言われる偽情報の多さです。

では私達にできることは、何でしょうか。スマホを使わないこと、それはできません。そのため、インプレゾンビの跋扈するSNSの世界を生きていくためにできることは、使いながらルールを規定することです。

インプレゾンビのエサは、閲覧数です。私たちが、不用意に「いいね」と押したり、リポストなどの2次拡散に手を貸すことを避けることです。そのために私たち若者を中心にメディアリテラシーの確立に努めないといけないと思います。

スマホの話になると大人は、「スマホへの依存が高まると、視力が落ち、記憶力の低下や学習意欲の低下につながる」と口をそろえて言います。確かに脳が発達途上の子どもやネットに不慣れな高齢者には注意が必要ですが、この流れは止められません。「ツールがルールを規定する」という言葉があるように、スマホというツール・道具は20年前にはありませんでした。だからこそこれからのルールは、当事者である私たちがつくるしかないのでした。

AIスマホも市場に入ってきて、「ツールの進化は止まりません」。みなさん、くれぐれもインプレゾンビには、注意しましょう。相手は、ゾンビですから、倒しても倒してもわいてきます。その相手に対して、エコーチェンバーやフィルターバブルの中で過ごしては、餌食にされてしまいます。まずは何が問題かを整理し、一人一人が自己のツールであるスマホを見つめます。まさしくこの世界のルールを規定するのは、私達です。

これは、今回の能登半島地震から学んだことでもあります。

橘高記念杯 最優秀賞

それでも鐘は鳴る

奈良県 高校教員 伊藤佑太

今から13年前の2011年4月、私は高校教師としての道を歩み始めました。幼い頃からの夢が叶ったのです。教員免許を手にし、東日本大震災の混乱の中で迎えた教職、それでも私は希望に燃えていました。当時の気持ちは、今でも鮮明に覚えています。

しかし、現実はその甘くはありませんでした。生活指導、膨大な事務作業、保護者からの過大な要求が次々と押し寄せてきます。休憩時間なんて無いも同然です。食事を取る時間は最短で30秒。気づけば一日が終わり、毎日がその繰り返し。夢だったはずの教師生活が、いつの間にか憂鬱なものになり、自分がなぜ教師になったのか分からなくなってしまいました。日曜の夜が怖い、夜明けが怖い、チャイムの音が怖い。キンコンカンコン鳴るたびに、出席簿とチョークを持つ手が、脚が、唇が震えるのです。同僚の教師も似たような経験をしていました。

生徒の成長と幸せを願い、学校の未来について幾つもの夜を語り明かした仲間たちが、一人、また一人と学校を去りました。両手では数えきれないほどです。文部科学省が今年3月に発表した学校教員統計によると、1年間で20代の教師が、5,000人近くも退職したという事実が明らかになっています。かつて情熱を持って教壇に立った5,000人です。夢と希望の春を迎えたはずの5,000人です。その分の涙と葛藤があることを私は知っています。

「伊藤先生、オレもう無理やわ。これ以上でけへんわ。なんで教師なったんやろ？ 間違ってたんかな。」そう言って去っていった教師の最後の言葉は、普通の向日葵のような笑顔からは想像もつかない悲痛なものでした。

さて皆さん、教師が退職する理由は何だと思いますか？ やるべきことが多すぎる？ 給料に見合っていない？ 休みが取れない？ もちろんこれらも一因でしょう。しかし本質は違います。教師が退職するのは、自分がスーパーマンになれないことに絶望するからです。解決できない問題に直面して限界に達し「もう無理だ」と感じてしまうのです。

近年、文部科学省は、教員採用数の拡充や特別手当の引き上げ、教員採用試験の早期実施、事務作業の業務委託などを検討しています。これらの対策には一定の効果が期待されるでしょう。しかし、根本的な解決には至っていません。なぜなら、教師・生徒・保護者を含めた社会全体の間違った価値観が変わっていないからです。まるでロボットのように、教師を人間扱いしてくれません。プロだから・プロだろうが・プロのくせによ… 聞こえの良い正論が飛び交っています。

しかし、皆さんにとっての恩師は完璧でしたか？ そんなことはないはずです。教師も人間です。究極的には、生徒への愛情があれば、それで十分だと私は思います。優しさ、厳しさ、授業や生活指導への一生懸命さ、個性豊かな教師が必要です。一人の生徒を一人の教師で育てるのは不可能です。学校全体で支えなければなりません。

教育実習生を指導する際、私は必ずこう問います。「生徒が好きですか？ 学校が好きですか？」その答えが「イエス」であれば、更にこう伝えます。「きっとあなたは素晴らしい教師になれる。あなたによって救われる生徒がいる。それを忘れずに、教壇に立ってくださいね。」と。

どんな仕事にも大変な面がある、これは否定できません。しかし、教職には、その厳しさの中にも予想もしなかった数々の奇跡が待っています。生徒たちの成長を目の当たりにする瞬間です。感動的な瞬間ですよ。実は昨年の本大会に出た後藤友理哉弁士（そこに座っています）と藤野桜菜弁士、一昨年の仙台大会に出た湯本慧弁士は、皆、私の大切な教え子たちです。彼女らが熱弁を振るう姿を、私は涙腺が緩んで見られませんでした。声はしっかり聞こえていたんですけどね。

教師を辞めることは簡単です。しかし、辞めてしまえば、その先生によって救われるはずの生徒やその成長に立ち会うことができなくなります。いいえ、これは学校教育に限った話ではありません。即効性や即戦力など、迅速さと高い効果ばかりを追い求める現代社会に、私は警鐘を鳴らしたいのです。大事なものを見失っていませんか？

学校でも、会社でも、子どもでも、大人でも、完璧な人間など存在しません。不完全な人々が、この世界を支えているのです。「永遠の未完成これ完成なり」—— 詩人宮澤賢治の言葉です。大丈夫、皆さんも大丈夫です。一つ一つ成長していけば、前向きな心を持っていれば、いつかきっと大きな花を咲かせることができるでしょう。

明日も、明後日も、その先もずっと、私の、そして皆さんの希望の鐘は、鳴り響くんやから。

歴代大会

開催数	開催年	開催地	最優秀者
第1回	昭和31年(1956年)	大阪府 岸和田中央小学校	長崎県 元 島 和 男
第2回	昭和32年(1957年)	岐阜県 岐阜市明徳会館	大阪府 清 瀬 喜代松
第3回	昭和33年(1958年)	広島県 広島市平和会館	長崎県 若 杉 虎喜男
第4回	昭和34年(1959年)	福岡県 福岡県社会教育会館	佐賀県 荒 本 月 秋
第5回	昭和35年(1960年)	神奈川県 茅ヶ崎市公民館	神奈川県 井 上 昇
第6回	昭和36年(1961年)	佐賀県 武雄市公会堂	広島県 前 田 真 爾
第7回	昭和37年(1962年)	島根県 島根県青年会館	岐阜県 長谷川 光 一
第8回	昭和38年(1963年)	長崎県 島原市体育館	長崎県 伊 藤 和 清
第9回	昭和39年(1964年)	香川県 琴平町公会堂	沖縄県 大 城 勲
第10回	昭和40年(1965年)	広島県 広島市中央公民館	兵庫県 橋 本 富 子
第11回	昭和41年(1966年)	愛知県 名古屋市中小企業センター	石川県 山 河 隆
第12回	昭和42年(1967年)	大阪府 堺市市民会館	大阪府 上 間 英 則
第13回	昭和43年(1968年)	石川県 七尾市山王小学校	石川県 中 山 修
第14回	昭和44年(1969年)	沖縄県 那覇市琉球新聞社ホール	大阪府 西 正 美
第15回	昭和45年(1970年)	島根県 松江市青年会館	石川県 鴻 野 博 司
第16回	昭和46年(1971年)	広島県 福山市市民会館	石川県 室 峰 登志子
第17回	昭和47年(1972年)	長崎県 島原市体育館	長崎県 松 尾 満 男
第18回	昭和48年(1973年)	北海道 滝川市文化会館	北海道 山 川 友 子
第19回	昭和49年(1974年)	島根県 簸川町公民館	広島県 山 本 純 三
第20回	昭和50年(1975年)	佐賀県 武雄市文化会館	岡山県 田 中 明 美
第21回	昭和51年(1976年)	愛知県 中京大学	愛知県 片 岡 武 司
第22回	昭和52年(1977年)	大阪府 泉大津市文化会館	長崎県 知 念 俊 明
第23回	昭和53年(1978年)	福岡県 西南学院大学	沖縄県 内 田 憲一郎
第24回	昭和54年(1979年)	岡山県 岡山市藤ヶ鳴牧場	石川県 喜 多 益 雄
第25回	昭和55年(1980年)	大阪府 近畿大学	神奈川県 足立原 泰
第26回	昭和56年(1981年)	愛知県 愛知学院大学	沖縄県 嵩 木 由紀子
第27回	昭和57年(1982年)	長崎県 大村市文化会館	長崎県 田 中 千賀子
第28回	昭和58年(1983年)	福岡県 柳川市民会館	長崎県 森 川 江利子
第29回	昭和59年(1984年)	和歌山県 高野山高等学校	石川県 松 本 和 夫
第30回	昭和60年(1985年)	和歌山県 高野山高等学校	岡山県 三 木 千 鶴
第31回	昭和61年(1986年)	長崎県 島原市文化会館	石川県 三 浦 とし子
第32回	昭和62年(1987年)	東京都 新宿区四谷公会堂	石川県 稲 場 千 里
第33回	昭和63年(1988年)	和歌山県 高野山高等学校	岡山県 伊 田 由美子
第34回	平成元年(1989年)	沖縄県 宮古農林高等学校	沖縄県 上 地 登

開催数	開催年	開催地	最優秀者
第35回	平成2年(1990年)	和歌山県 高野山高等学校	岡山県 岡田 美由紀
第36回	平成3年(1991年)	愛知県 中京大学	沖縄県 大城 洋子
第37回	平成4年(1992年)	千葉県 千葉市民会館	北海道 渡辺 修子
第38回	平成5年(1993年)	佐賀県 武雄市文化会館	広島県 杉浦 美奈子
第39回	平成6年(1994年)	香川県 琴平町文化会館	千葉県 脇本 和香子
第40回	平成7年(1995年)	福岡県 柳川市白梅学園	沖縄県 金城 美之
第41回	平成8年(1996年)	和歌山県 高野山高等学校	石川県 蔵 都
第42回	平成9年(1997年)	長崎県 向陽高等学校	長崎県 浦川 理加
第43回	平成10年(1998年)	福岡県 柳川市白梅学園	長崎県 木村 利仁
第44回	平成11年(1999年)	京都府 日本イタリア京都館	北海道 佐藤 友宇子
第45回	平成12年(2000年)	千葉県 佐倉市コミュニティーセンター	千葉県 青木 麗菜
第46回	平成13年(2001年)	北海道 北海学園札幌商業高等学校	宮城県 長峯 深雪
第47回	平成14年(2002年)	奈良県 天理大学	奈良県 張 福龍
第48回	平成15年(2003年)	福岡県 柳川市白梅学園	埼玉県 麻生 高代
第49回	平成16年(2004年)	熊本県 崇城大学	長崎県 佐々野 桜
第50回	平成17年(2005年)	東京都 国士舘大学	埼玉県 橋本 光信
第51回	平成18年(2006年)	島根県 斐川町中央公民館	東京都 伊藤 あかり
第52回	平成19年(2007年)	福岡県 久留米市民会館	北海道 二木 緑葉
第53回	平成20年(2008年)	石川県 金沢歌劇座	北海道 戸田 智美
第54回	平成21年(2009年)	埼玉県 浦和コミュニティーセンター	北海道 川瀬 幸奈
第55回	平成22年(2010年)	群馬県 草津音楽の森国際コンサートホール	和歌山県 白馬 秀孝
第56回	平成23年(2011年)	北海道 北海学園大学	北海道 石川 沙昌
第57回	平成24年(2012年)	神奈川県 きらら鎌倉(鎌倉生涯学習センター)	京都府 村山 勇暉
第58回	平成25年(2013年)	福岡県 柳川市白梅学園	石川県 嶋田 有莉
第59回	平成26年(2014年)	愛知県 中京大学	千葉県 西澤 由佳
第60回	平成27年(2015年)	和歌山県 高野山高等学校	沖縄県 上間 優美
第61回	平成28年(2016年)	沖縄県 沖縄県立芸術大学	宮城県 今野 泰齊
第62回	平成29年(2017年)	茨城県 茨城県立県民文化センター	長崎県 浦田 詩織
第63回	平成30年(2018年)	京都府 立命館大学朱雀キャンパスホール	愛知県 齋藤 凜花
第64回	令和元年(2019年)	東京都 高野山東京別院本堂	茨城県 植田 涼香
第65回	令和2年(2020年)	岡山県 早島町町民総合会館ゆるびの舎	新型コロナウイルス感染拡大のため中止
第66回	令和3年(2021年)	愛知県 修文大学・修文大学短期大学部	東京都 水嶋 恵利那
第67回	令和4年(2022年)	宮城県 仙台市太白区文化センター	神奈川県 有馬 優
第68回	令和5年(2023年)	静岡県 清水ふれあいホール	岡山県 橘里香 サニヤ
第69回	令和6年(2024年)	石川県 北陸学院中学校・高等学校 栄光館	石川県 松本 心和
第70回	令和7年(2025年)	神奈川県 横浜国立大学 教育文化ホール	

日本弁論連盟の事業概要

昭和28年4月、島原市教育委員会のご指導により、島原市青年弁論同志会が結成され、「弁論は人なり、道なり、光なり」と会員の活動は目覚ましく、雄弁新報社の宮永が聴き知り、全国に紹介し、昭和29年1月7日に関西雄弁会と広島市の広島県松本商業高等学校弁論部を島原市に招き、島原市労働会館で親善弁論大会を開催し、終了後宿舍幸利屋において、祖国再建に貢献するために、話し方を通して青少年の建設的な発言の場所をと、日本弁論連盟結成の協議がなされました。

助言者として島原市教育委員会からも出席し、2日間の熱心な討議をされた結果、翌日8日に日本弁論連盟が結成されました。

昭和29年には日本弁論連盟に先駆けてモデルとなる団体として、全国高等学校弁論連盟が結成され全国の高等学校生を対象に弁論大会として「文部大臣旗全国高等学校弁論大会」が開催されました。

日本弁論連盟結成を全国に示すため、全国の弁論関係者に呼びかけて、昭和31年1月22日大阪府立労働会館に全国より80名余の青年弁論有志が出席し、鳩山一郎内閣総理大臣と清瀬一郎文部大臣からの祝辞（代読）があり、名称を「日本弁論連盟」と宣言し、勇躍発足しました。

昭和31年11月25日、「第1回 文部大臣杯全国青年弁論大会」を大阪岸和田市で開催して以来、全国青年弁論大会は全国持ちまわりで開催してまいりました。

「第60回 文部科学大臣杯 全国青年弁論大会」の記念大会を、平成27年11月3日に高野山開創1200年記念行事の一環として、高野山大師教会において開催することが出来ました。

60年と言う半世紀を越える長きに渡り継続して大会を開催し、地区予選大会を含めると5千人以上が体験していますが、その多くが財界・経済界・教育会等で活躍しています。

しかし、開催する財政負担金は少なく、大会開催の協力体制や広告収入の確保や大会運営については役員をはじめボランティアで行う等の努力によって、ここまで大会を継続し活動してきました。

全国青年弁論大会は地域を固定せず、全国持ちまわりで開催することにより、地域での青少年の弁論の普及に努めるとともに、青少年の弁論を通して話し方教育、青少年の健全育成と明るい地域社会の発展に貢献してまいりました。

今後も「青少年の発表する場の灯を消すな」「大会の灯を消すな」のもと青少年の正しく相手に披瀝する発表場を設け、世界がグローバル化し、競争が激化する中、弁論と言う一つの言語活動を用いて、青少年の一人一人が持っている能力、多様性を引き出す活動を続け、青少年の人材育成と明るく健全な地域社会はもとより国際社会でも活躍できる人材育成を目的に社会貢献していききたいと思います。

祝 第70回 文部科学大臣杯 全国青年弁論大会

弁士の皆様のご健闘を
お祈りしています



岡山支部 ボート レーサー

樋口 由加里

倉敷翠松高等学校 バスケットボール部 卒業生
弁 論 部

捨てないことが、 本当のエコである

PANEX

アルプスの麓、北イタリアにて数百年にわたって受け継がれてきた

伝統のパネトーネ種(天然酵母)を食卓へ。

伝統製法を守り、安心・安全はもちろん、美味しさにこだわった

賞味期限最大90日のロングライフパンを製造・販売しています。



GIFU



本社・工場

NAGANO



長野工場
長野第二工場

NAGANO



長野工場物流センター

YAMAGUCHI



下関工場
下関菊川配送センター

TOKYO



Gian Franco 世田谷(店舗)
<https://www.gianfranco.jp>

株式会社 パネックス

本社・工場 〒509-0262 岐阜県可児市菅刈575-12
TEL:0574-65-1531 FAX:0574-65-1251



従業員募集!
一緒に働く仲間を
待っています!

<https://www.panex.co.jp/>

社会に響け!! 若者の声。



CreateDM
Distribution Management

株式会社 クリエイトDM

代表取締役会長 福本勝幸

〒494-0002 愛知県一宮市簗屋 4-11-37

奨学金を借りたら 奨学金バンク

就職・転職を通して
毎月の奨学金を代理返還



奨学金バンクは、
学びと挑戦を通じて成長する弁士の皆様を
応援しています。

奨学金バンク 就職サポートサービスの特徴

POINT
01 

社員思いの会社と出会える

奨学金問題と向き合う、従業員想いの企業
の求人を取り揃えています。

POINT
02 

人事のプロが就活に伴走

採用・研修・組織づくりを知り尽くしたコン
サルタントが、就職からキャリアまで一緒に
考えます。

POINT
03 

早期離職などのリスクを防ぐ キャリア相談

“入社したけど合わなかった”を防ぎ、長く働
ける会社選びをサポートします。

POINT
04 

奨学金返還と生活の リアルを先取り

社会人1年目の生活費＋返済の実態や、気
をつけたいポイントを事前にお伝えします。



奨学金バンク

奨学金返還支援サービス



GOOD DESIGN
AWARD 2024



日本初
奨学金返還支援
プラットフォーム



: 03-6231-9505

平日9:00-18:00(土日祝日を除く)

LIVE

奨学金バンク

LINE

登録はこちら



Yes! きのうの悩みを、あしたの笑顔に。

50年の歴史と技術力。
高須クリニックは
信頼と安心を
提供し続けます。



統括院長 高須克弥

院長 高須英津子



美容外科 美容皮膚科

銀座高須クリニック

〒104-0061

東京都中央区銀座一丁目8-19 ONE GINZA 11F

銀座一丁目駅：7番出口(徒歩1分)

京橋駅：2番出口(徒歩2分)

有楽町駅：京橋口・中央口(徒歩5分)

ホームページからでも資料請求やカウンセリング予約が可能です

<https://www.takasu.co.jp/>

電話受付時間 9:00-21:00

☎ 0120-5587-15

毎々格別のお引き立てを賜り 厚く御礼申し上げます

弊社は、収益ビル、収益マンションの取得及びマンション用地の取得に
力を入れていますので、情報をお待ちしております。

◆保有物件

レ・ベント茅ヶ崎
レ・ベント双葉町
レ・ベント西日暮里
レ・ベント新川崎

◆ラ・シテシリーズ

ラ・シテ代官山225
ラ・シテ広尾216

◆クレアートルシリーズ

クレアートル綾瀬
クレアートル氷川台
クレアートル神楽坂
クレアートル高井戸
クレアートル横浜上永谷
クレアートル北千住
クレアートル亀戸
クレアートル両国
クレアートル西馬込
クレアートル西落合
クレアートル船堀
クレアートル調布ヶ丘
クレアートル代々木大山町
クレアートル中延
クレアートル浜田山
クレアートル椎名町
クレアートル鳩ヶ谷
クレアートル西日暮里

◆レ・ベントシリーズ

レ・ベント板橋本町
レ・ベント等々力
レ・ベント大森
レ・ベント上板橋
レ・ベント柿の木坂
レ・ベント高円寺
レ・ベント神田
レ・ベント武蔵小杉

◆ミュウシリーズ

(リフォーム事業)
木場サニータウンミュウ

◆その他

マイキャッスル梅葛
グリーンビレッジ江戸川台
イトーピア広尾ヒルズクロアチェ
クレストフォルム千歳船橋
シンシア大森
ジェイフラッツ四谷坂町
池袋本町戸建
浅草橋ビル
広尾ビル
大谷口収益アパート



社団法人 日本住宅建設業協会 建築プロジェクト賞 ラ・シテ広尾216 前面外観・池

 **ADMIRAL**

GROUP CEO 前田 利幸

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 NABOCUL TOWER 10F
TEL. 03-3239-4111

ハナシコム

日本大学 桜門雄弁クラブ

【会長】福田 弥夫（日本大学雄弁会OB） 【幹事長】山中和則（日本大学雄弁会OB）



横浜国立大学キャンパス内の
メインストリートにある「YNUモニュメント」

hasegawaueki.jp

株式会社 長谷川植木

造園・設計・施工・管理・移植

代表取締役 長谷川 眞一

〒216-0002 神奈川県川崎市宮前区東有馬 5-27-3 TEL044-870-6187 FAX044-870-6188

神奈川県知事 許可(般-2) 第69385号

本物の見える抑止力

強い使命感と高い機動力を持って お客様の『安心・安全』をサポートします。

 phoenix
株式会社フェニックス

フリーダイヤル

0800-222-6646

〒332-0035 埼玉県川口市西青木 2-3-11
NTT 川口青木ビル 1F
TEL.048-229-0600 FAX.048-229-0639

警備・警護に関することなら、当社へお気軽にお問い合わせください。

トライアングル車検の 双葉石油株式会社

祝 第70回 文部科学大臣杯 全国青年弁論大会

薪能



フェスティバル



試験会場



進水式



展示会



コンサート



お祭り



マラソン大会



入学・卒業式



各種式典



- イベント事業部 式典・スポーツイベント他各種行事のプラン創りから会場設営・什器備品の手配まで、広くお手伝い致します。
- 舞台管理事業部 ホール・舞台の効果的な運営・操作・管理に確かな技術でお応えします。
- 施設管理事業部 文化・スポーツ施設の管理・運営をお手伝い致します。

G^{lobal} & Active

<http://www.gibla.com>
E-mail: eigyol@gibla.com

催物会場設営 什器備品賃貸
音響・照明・映像・舞台設備操作管理

株式会社 G & A

本 社 〒114-0001 東京都北区東十条4-6-3
TEL 03-6858-0533 FAX 03-6858-0545
業務統括本部 〒340-0002 埼玉県草加市青柳3-14-10
埼玉草加倉庫 TEL 048-930-5850 FAX 048-930-5851
茨城石岡倉庫 〒315-0165 茨城県石岡市小倉竈田台306-2



第七十回

文部科学大臣杯

全国青年弁論大会

出場弁士 皆様のご活躍を祈念します

頑張れ!!

伊藤 栞さん



北海学園 札幌高等学校

(旧 札幌商業高等学校)

弁論部 卒業生有志一同

代表 松井 義宣

大山 広子

日本情報処理検定協会

樋口由加里

銀座高須クリニック

株式会社アドミラル

株式会社パネックス

株式会社クリエイイトDM

株式会社アクティブアンドカンパニー

株式会社G&A

北海学園札幌高等学校(旧 札幌商業高等学校)

桔梗山郷福寺

株式会社フェニックス 株式会社ハナシコム

株式会社長谷川植木 日本大学桜門雄弁クラブ

双葉石油株式会社 ナガシマ株式会社

.....

片岡武司 新田修 住田信治 大西貴也 平松公子 西尾直毅

富田向真 松浦顕雄 渡邊克也 白馬秀孝 平山公治 蔵都

中川雅子 保坂和幸 水野詩織 水嶋恵利那

[illegible]

「情報化社会に対応できる人材の育成」のために

日本情報処理検定協会が主催する

各種検定・認定試験

当協会は、各種検定試験・認定試験の習得を通じて、情報及び情報機器の活用能力向上を図ることにより、わかりやすく情報を整理する力・表現する力・伝達する力などの情報活用力が身につきます。そのため、情報化社会の進む社会で「求められる人材」の育成を目的に、多くの学校・企業で採用されています。

8つの検定・認定試験！



あなたのスキルを伸ばす

試験は年4回実施

全種目全級の試験を年4回実施しますので、より一層のレベルアップが可能。

実技試験

全て実技にて試験を実施するため、実務的な能力が身につきます。

■お問い合わせ

日本情報処理検定協会 統括本部
〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1002 番地
TEL: 052-936-3817 FAX: 052-936-5625
<https://www.goukaku.ne.jp/>

詳細はホームページをみてね！
WEBで「日検」で検索！



